

北京で開催された「鉄道発展戦略フォーラム」で副島理事長が講演

平成14年 7月 11日

財団法人鉄道総合技術研究所

財団法人鉄道総合技術研究所の副島廣海理事長は6月13日、中国・北京で開催された「鉄道発展戦略フォーラム」で、「新幹線の高速輸送を実現するためのキーテクノロジー」と題する講演を行いました。

このフォーラムは中国鉄道部の後援を受けて中国鉄道科学研究院が主催したもので、併せて6月12日から15日まで北京国際貿易センターでは「第5回 モダンレールウェイ2002」と呼ばれる国際展示会が同時に開催され、約10カ国（独、仏、米、日、加、韓 他）、150社を超える中国内外のメーカーが参集しました。

中国では、日本でも話題に上っている、北京 - 上海間の高速鉄道計画や各地の在来線の高速化に強い関心が集まっており、北京飯店で開催されたフォーラムには中国鉄道部 蔡慶華 副部長、対外貿易経済合作部 魏建國 副部長、中国鉄道科学研究院 聂阿新 院長ほか、中国内外の鉄道関係者をはじめとする約120名の方々が参加しました。

日本を代表して講演を行った副島理事長は、まず、日本の新幹線の現状とこれまでの発展の経緯を紹介し、新幹線が世界に誇る高速・大量・安定輸送を支えるキーテクノロジーとして、動力分散方式による軸重の軽減化と粘着制御による高加減速性能の実現、走行安定性と乗り心地の改善、保安システムと列車制御システム、災害対策、騒音・振動などの沿線環境の保全、車両とインフラの保守、省エネ、旅客の利便性向上などを挙げ、セミアクティブサスペンションやデジタルATCなどの最新の技術も織り交ぜながら、高速鉄道はあらゆる分野において、システムティックに発展することが大切であることを強調しました。

フォーラムでは、このほか中国鉄道部と国務院の代表が第十次五カ年計画に基づく鉄道の建設計画や高速化計画などについて講演を行い、特に中国全土にわたる東西八路線、南北八路線の高速化計画が紹介されて注目を集めました。またアルストム、シーメンス、ボンバルディエ各社の代表がそれぞれの高速車両技術を中心に講演を行いました。



写真 北京飯店で行われたフォーラムで講演する鉄道総研副島理事長